



平成 26 年 12 月の徳島県西部地域で発生した大豪雪で同市内の山沿いの地域が 4 日間孤立、電力供給がストップし、人的被害、交通障害が発生しました。近隣に所在する三好市山城地区の人々は、その状況を目のあたりにし、明日はわが身という危機感をもちました。

そして、自分たちで電力関係のインフラをなんとかできないかと情報を探索していたところ、マグネシウム循環社会推進協議会との出会いがあり、「マグネシウム・サイエンスパーク」構想の説明を受けました。

「マグネシウム・サイエンスパーク」とは、マグネシウム構造化材、合金、建材等からマグネシウム空気電池へ展開するために、自然エネルギー、余剰時のエネルギーを活用しマグネシウムの製錬を行い、マグネシウムの再生利用を図ります。このことから将来的に電池のみならずマグネシウムを活用した産業集積を形成することをいいます。

これには同地区の廃校を利用して、マグネシウム循環社会推進協議会の公開セミナー等を開催しつつ、各社の研究開発室の誘致が図られ、研究者等が連携して研究をすすめ、また異業種交流の場として、若者が同地区に訪れることにより、同地区の活性化が図られます。将来的にはマグネシウム産業集積として、科学者が集まって研究する施設になるようにしていきたいと存じます。

マグネシウム循環社会協議会は、ここに位置する水力発電施設を活用し、グリーンな電力で、グリーンな製錬を実施、マグネシウムをリサイクルするというテストプラント施設を設置しマザーエリアとして地域活性化に貢献したいと考えています。

また、将来的には、国際連合のアジェンダ 2030(SDGs)にあげられているエネルギー部門の目標を実現するマザー・サイエンスパークを目指してまいります。

理事長 西田 正志
顧問 並岡 和久

* 昨年 9 月に開催された地元説明会



政友小学校の隣に位置する伊予川発電所

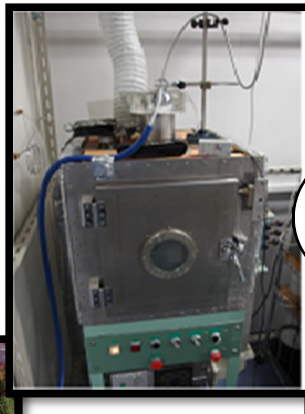


マグネシウム・サイエンスパーク構想の拠点施設(予定) 廃校となった政友小学校



水力発電所の電力を活用し製錬するマイクロ波ピジョン法(東京工業大学)

グリーンなエネルギーを利用したマグネシウム製錬(精錬)技術の展開(東北大学)



太陽光(熱)での製錬
左: ビームダウン太陽光集光装置(三鷹光器株式会社)
右: フルネルレンズ(若狭湾エネルギー研究センター)

